



大銀杏

根



城



南部師行公

2020年度 第2号

八戸市立根城中学校 令和2年6月5日発行

跳ね返せ 逆境を 燃える闘志を 一つの輪に

校長 木村一夫

上のタイトルは、今年度の八戸市中学校体育大会夏季大会に向けて募集したスローガンの中から、本校の代表として選ばれた作品です。考案者は女子バスケットボール部2年生の関美南さんです。作成当時は、「新型コロナウイルスに負けずに全校一丸で夏季大会に臨もう！」という願いが込められていました。しかし、大会が中止となった今は“逆境”という言葉には、試合の機会を失った運動部と同様に、コンクールのステージも消えた合唱部や吹奏楽の悔しさ、そして、今後の学校生活や行事に対する不安も含まれています。だからこそ、このスローガンは、これからの様々な場面において本校生徒も教職員も心に刻むべきものだと強く思います。そのことを率先して示したのが、特別措置期間における3年生です。まずは、次のコメントを読んでみてください。



2020/5/28

3学年通信『希望』から抜粋

保護者の皆様、いよいよ教室での学校生活がスタートします。この3週間、3年生の生徒たちは本当によく頑張りました。この間、市中体の中止、合唱や吹奏楽の大会の中止など、お子様が中学校の部活動の集大成として臨む最後の大切な場がなくなるというショックな出来事がありました。そのような中でも、生徒たちは腐ることなく、乱れることなく気丈に振る舞い、毎日の学校生活を送ってきました。本当に感心すると同時に、素晴らしい生徒たちだと思います。根城中学校では、これからも3年生のために、3年生の思い出づくりのために今の状況でやることを学校としても学年としても、日々工夫しながら進めていきますので、ご理解とご協力をいただきたいと思います。

2学年通信『健康』から抜粋

夏季大会が中止となりました。全国・東北地区はもとより、地区大会さえありません。3年生にとっては“残念”では済ますことのできない、人生においても計り知れない大きな衝撃だったと思います。命に関わることだと言われれば、この措置は仕方ないことだと思いますが、この決定を知らされた3年生の心情を思

うと、やり切れなさでいっぱいです。これは運動部に限ったことではなく、吹奏楽部や合唱部も同じようにコンクールやコンテストの地区大会も中止という決定。合唱部は昨年度全国大会中止を経験し、その悔しさを3年生で晴らす意気込みで臨んだ今年でしたが、大会自体がなくなったことの衝撃は大きかったと思います。実力も出場する権利もありながら、それが叶わない悔しさは、言葉では表せないものだと痛感します。挑戦する機会も与えられぬまま、突然目標がなくなったのですから、やけになったり、物や人に当たるといったことがあっても不思議ではない、それで気持ちが晴れるのであれば。逆にそうしてほしいとさえ思います。しかし、3年生は大声を上げるわけでもなく、何かに当たるといったこともありません。現実を受け止め、粛々と今自分のすべきことに集中しているように見えます。(見えないところで泣いていたかもしれませんが)3年生は素晴らしいものを残してくれました。このことは、今後もずっと語り草になるでしょう。“あの時、先輩たちはコロナになんか負けなかった立派な先輩だった”と。それは、大会で優勝することよりももっと大切に荣誉あることだと思います。2年生には偉大な3年生に続いて行ってほしいと願っています

1学年通信『きずな』から抜粋

部活動は再開したのですが、3年生の心中は複雑なものがあるでしょう。昨日の部活動の様子を見る限り、複雑な心中を微塵も見せることはありませんでした。もう大会はないと言われた彼らにとっては、部活動の集大成としての自分たちの力を試す目標となる場を失ったのです。やる気をなくしたとしても決して不思議ではありません。それなのに、爽やかでした。どうでもいいやという開き直りではありません。気持ちの入った顔をしていました。正直、すごい奴らだなと思いました。もちろん、一人になって大会がなくなったことを考えれば、あふれ出る悔しさも涙もきっとあるはずですが、でも、みんなの前では決してそれは見せない。余計なことは考えない。そして、前だけを見るようにしている。「勝ちたい」という「目標」は失ってしまったかもしれませんが、彼らは「いい人間になる」という「目的」を失ってはいないのだなと思いました。彼らにとっての部活動は、勝つことや強くなるためだけにやってきたものではないのでしょうか。こんな時だから試されるのが人間性です。それがわかっている立派な先輩です。そして、それが3年生たちの「プライド」なのだと思います。素敵な先輩ですね。1年生の皆さん、彼らと一緒に活動できる、残された限られた時間を大切にしましょう。

今号の内容は、ほぼ各学年通信からの引用であり、まさに「人の禪で相撲をとる」という諺を文字で表したようなものになりました。3学年主任は、自分の担当する学年だから、かなり控えめに褒めていますが、1・2学年主任は、学年の外側から見た「3年生の勇姿」を熱い言葉で伝えています。卒業式や体育祭等での3年生の態度やリーダーシップが讃えられることは、これまで勤めてきた学校でも目にしました。しかし、今回のような“逆境”において、期せずして学年主任全員からの「言葉の拍手」を浴びたことは、思い出せる限りでは私にとって初めてであり、3年生全員にとっての勲章です。

結びに、「要注意月間」における保護者の皆様のご理解とご協力に感謝申し上げます。